

製品名: SMURF 2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86471**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	Calculated MW:86 kDa; Observed MW:86 kDa

抗原情報

遺伝子名	SMURF 2
別名	SMURF2
遺伝子 ID	64750
SwissProt ID	Q9HAU4
免疫原	ヒト SMURF2 の合成ペプチド

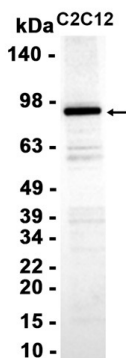
背景

E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼは、E2 ユビキチン結合酵素からチオエステルの形でユビキチンを受け取り、その後、標的基質に

直接ユビキチンを転移します。SMAD1 および SMAD7 と相互作用し、それらのユビキチン化およびプロテアソーム依存性分解を誘導します。さらに、SMAD7 との相互作用は自己触媒分解を活性化しますが、これは SCYE1 との相互作用によって阻害されます。TGF- β 受容体を介したリン酸化 SMAD2 および SMAD3 と安定な複合体を形成します。このようにして、SMAD2 は SNON などの基質をユビキチン介在分解にリクルートする可能性があります。SMAD7 の阻害活性を増強し、SMAD2 の転写活性を低下させます。SMURF2 と SMAD1 の共発現は、SMAD1 タンパク質の定常状態レベルを大幅に低下させ、SMAD2 レベルの減少をわずかに抑えます。

研究分野

画像データ



SMURF 2 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して、C2C12 細胞抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。